

**平成23年度  
第1回藤島地域審議会  
会議録(概要)**

期日：平成23年5月18日(水)  
場所：藤島庁舎 大会議室

## 第1回藤島地域審議会会議録（概要）

○日 時 平成23年5月18日(水) 午前9時～

○会 場 藤島庁舎大会議室

○出席委員（五十音順）

阿部正良、安藤良昭、小野木覺、上林節子、小林功、今野多美子、齋藤泰宏、相馬大、  
高橋徳雄、高橋竜太、富樫達喜、成澤修、丸山厚、丸山鎮

○欠席委員

板垣てつ子、大沼政雄、奥山康光、佐藤一晴、堀口大介

○出席事務局職員

藤島庁舎 支所長 中村眞一、総務課長 今野克雄、市民福祉課長 相馬弘、  
市民福祉課主幹 丸山隆逸、建設環境課長 高橋親孝、産業課長 黒坂信勝、  
ふれあい食センター所長 上林正利、教育主幹 佐藤正規、  
本 所 総務部長 加藤淳一、総務部次長 秋庭一生、企画部長 秋野友樹、  
財政課長 富樫泰、職員課長 川畑仁、職員課主幹 土屋清光、  
調整課長 永寿祥司、地域活性化推進室長 吉住光正

○次 第

1、開会 総務課長（辞令交付）

2、会長挨拶 小野木 覺会長

3、支所長挨拶 中村支所長

4、委員紹介 総務課長

5、協議

（1）藤島地域審議会協議テーマについて

（2）その他

6、その他

（1）鶴岡市行財政改革について

7、閉会

## 【 会議の概要 】

- 1、開会 （今野総務課長） （辞令交付）
- 2、会長挨拶 （小野木会長）
- 3、支所長挨拶 （中村支所長）
- 4、委員紹介 （今野総務課長）
- 5、協議

### （1）藤島地域審議会協議テーマについて

○小野木覚会長 それでは暫時の間、座長を務めさせていただきます。始めに藤島地域審議会協議テーマの進め方について、事務局の方からお願いいたします。

○今野総務課長 協議のテーマの進め方についてご説明いたします。昨年度までの藤島地域審議会におきまして、4つの協議テーマが出された所でございます。このうち1番のテーマにつきましては、昨年度、ある程度議論が尽くされたと考えております。今年度の地域審議会につきましては、来年度の予算に盛り込めるものは、盛り込んでいきたいとの考え方から、比較的まとめやすい3番目のテーマからご協議いただきたいと思っております。

○小野木覚会長 皆さん、健康づくりは、やっているようですけれども、なかなか漠然とした話で、なんでも良いですから思ったことを話していただいて、要望がありませんか？

○丸山鎮委員 健康づくりと言いますと、栄養・休養・運動。これが健康づくりの3要素であるわけです。私、藤島スポーツクラブの会長をやらせてもらっていますが、クラブを作るまで時間かかりました。藤島には、体育協会に加盟しているいろんなスポーツ団体があって。さらに子供たちはスポーツ少年団で色々活躍している。その他にスポーツクラブが必要なのかと、そんな所が大きな壁でありました。

旧藤島町の時代に、藤島町民はどの程度、運動しているのかという調査結果を求められました。その調査では、小学生はスポーツ少年団に入っていない子供たちが大勢おり、中学生は、部活ということで、90%以上が運動をやっている。ところが高校・一般になりますと、またぐんと減ってきている。そこでスポーツクラブを作って、既存の団体とで会員の奪い合いにならないよう、健康づくりを主体としたクラブが発足した訳でございます。会員は約200人前後で推移して4年目を迎えましたけれど、今、課題は、二つあります。一つは、スポーツクラブは補助金をいただいて発足しましたが、その補助金は5年で切れます。補助金が切れた場合にどうするか？というのが課題です。二つ目は、健康づくりというのは、今まで行政主導型で来たため、タダであれば、講習会に参加してもいいのだけれど、お金が掛かると参加率が悪い

ということがありました。いわゆる「自分でお金だして、自分で健康を守る」という所までには、行っていない。それが実態であり課題であります。そこで今日のテーマ「市民の健康づくり」の視点でのお願いですけれども、藤島地域として、住民の皆さんがどんな健康づくりをしているのか、健康づくりは先ほど「栄養と休養と運動だ」と言いましたけれど、そういう3つの視点から、実態はどうなんだろうという、調査をしてみてもいいでしょうか。調査して、実態が分かると、それじゃ目標をどこに持っていくか、一週間に一回健康づくりしようとか、食べるときには、良く咬んでとか、色々な実行のための計画ができ、そして実践が出てくると思うのです。そういう意味で、まず実態を調査してみてもいいかと思うのです。

○相馬大委員　この藤島地域の中で、どの様な健康づくりや、運動が行われているか、そして参加可能なのかという情報を出してもらおうことが、一つ手なのかと思います。もう一つが、このテーマで冬場というのがありますけれども、冬場はどうしても出れない、特にお年寄りとかは、一番のネックだと思います。予算の都合で難しいかと思いますが、スクールバスの活用とかで、冬場にも外に出やすい環境を作っていただければと思います。情報をだせば、藤島地域でのスポーツクラブとかも、参加する人は、まだまだいるだろうと思います。

○小野木覺会長　役所の方で何かアンケートとか取りまとめたものはあるのでしょうか？体育館の利用は、どの程度地元と、地元外の人が来ているのか分かりますか？

○佐藤教育主幹　藤島体育館は、かなり庄内町それから旧鶴岡市の方の利用が多いです。平成22年度の利用者数として、トレーニングルームの方ですけれども1万4073人です。3月11日の東日本大震災で、3月中は夜間の利用を中止したという関係から、H22年度の利用は、若干、利用者数が減ったという状況にはございます。

○阿部正良委員　冬期間、私は、天気の良い日は、体育館から、国道の歩道などを一周しています。もう少し誰でも、ウォーキングできるような除雪をお願いできればと思います。ウォーキングしている人は、高齢者が多い訳ですが、そうすると冬季間というのは、なかなか外に出るのは難しい状況があります。難しいかもしれませんが、高齢者向けのウォーキングコースみたいなのを作れば、どうでしょうか？

それから二つ目、体育館に軽スポーツクラブというのがあり、私も加入しておりますが、会員が非常に固定化され、新規参加者がおりません。藤島地区の参加者が案外少ないので、立派な体育館があつて、いろいろ運動できる機会がある訳ですので、丁寧な情報があれば、参加率が上がるのではないかと思います。それから会費は年間6,000円ですが、もっと安くすれば、多く参加できるのかなと思っています。

○小林功委員　私の健康づくりの実践例ですけれども、早寝早起きがモットーで毎朝5時半に散歩に出まして約1時間半、今日も歩いてきました。歩くコースは、大体決まっています、鳥海山や藤島川、因幡堰など、あまりに自然景観が良いものですから、たまにスケッチブックを持って行って写生したりします。私、何十年も歩いていますが、つくづく思うことは、藤島には恵まれた自然空間があることです。そして朝早く歩いていると、風の動きや、花々の匂いなど、自然から気づきを頂く。心の健康になります。自然から与えられて、健康づくりができる。この藤島地域から、早寝早起き、朝起き運動を始めてはどうか。そして今日も、知人から挨拶してくれました。朝の挨拶運動にもつながります。そして、その人から元気を頂き、これが一日の活力になる。ということですね。朝の散歩は、心と体の最高の健康の源、健康づくりの出発点になると思います。

○小野木覚会長　高橋さんは、どういう冬のすごし方、高齢化社会を向かえて、我々60代、70代は、どんなことをやったらいいと思いますか？

○高橋徳雄委員　もし自分が自分にプレゼントするには、どうすればいいのか。自分の健康管理が自分に対する一番のプレゼントだと、私は思っています。

このテーマに冬場の取組みと出ていますが、グランドゴルフもでています。藤島では、グランドゴルフは盛んです。ただ、冬場、小真木原体育館をどうすれば使えるのかという話が出ています。もし小真木体育館で練習する場合は、そこまでの輸送はどうしてやっていただけるのかという質問は、私も受けております。交通は非常に難しい面もあるかと思うのですが、この辺を考えていただければと思います。

それから、ウォーキングの場合は、東栄地区にも歩こう会がありますが、これもやはり冬場の問題があります。東栄では、東栄公民館の体育館で歩いておるようです。

相馬委員からも話がでましたが、お年寄りとなりますと、雪の上を歩くと転んで骨を折ったとか、いろんな事がでてくるものですから、あまり無理をしないで、コタツに入ってテレビでも見てとなるようです。

○小野木覚会長　はい、どうもありがとうございます。年齢別に聞かせてもらうことにして、今日はじめて、審議会に出席された安藤さんは、冬場とか、健康に対して、どんなことを望んでいますか。また自分がどんなことをやっているのか、お願いします。

○安藤良昭委員　初めて審議会に参加させていただいた安藤と申します。藤島に移ってきたのが10年前で、冬に藤島に向かうと、どんどん雪が多くなってきます。とてもじゃないが冬場の健康管理というのは難しいなあと思っています。私は、行政でも、民間でもかまわないですから、「克雪」というか、雪に打ち勝つという施策をやっていくべきだと思います。スポー

ツ少年団の子供たちを集めてスキー教室も行われていますが、一冬に一回ぐらいで、まだまだ回数が少ないんですね。雪おろしツアーとか、雪に打ち勝つというよりも、雪に親しむという雰囲気味わってもらったら、今後、大雪が降っても対応できるのではないかと思います。まず、「雪に親しむ」。老人の方からも、できれば庭に出て、雪踏みをするとか、ぜひ外に出て運動してもらおう。そういうことをお願いしたいと思います。

○小野木覚会長　はい、どうもありがとうございます。斎藤委員は、健康づくりにどういうことをやっているのか。どういうことを町に望んでいるのかをお願いします。

○齋藤泰宏委員　この「健康づくり」というのは、範疇が広いと思います。健康な体を維持するには、当然、スポーツだとかトレーニングだとかも必要なわけですが、それだけでなく「食」というものが大変重要になってくると思います。昔から「身土不二」という言葉がございますが、地域で取れた農産物を食べることが、その人の健康、地域住民の健康につながるという意味合いだと思います。スポーツだけではなく、人間の体の維持するには、いろんな多方面があるということで、一つ皆さんからご意見を聞かせていただければと思います。

○富樫達喜委員　最近、非常に身近な人間を亡くしたのです。臨終まじかい病室で、「なんで、あなたもっと早くドックに行ったり、医者から診てもらわねなや？こうなるまで分からねがったのがや？」と言ったら、「自分の健康には、絶対の自信があった。だから、医者にもかからなかった。それだけ、私は健康に自信を持っていた」ところが、異変に気づいた時には、既に手遅れであった。「やっぱり医者には、かかることやのう」そう言って、旅立っていったのです。

市役所の保健課の方から、ドックの連絡が一切なかったとしたら、確実にドックに行くだろうが、毎年毎年、決まった時期にドックに行くということは、やっぱり行政の力だと感じたのです。ドックの結果に対しても、保健婦さんから指導の電話まで頂きます。非常に、ありがたいことで、やっぱり健康というのは、自分自身で守るものであって、人から言われるものではないと思っています。今の行政の市民に対する健康指導というのは素晴らしいと思います。これからもこのような体制は、しっかり続けて欲しいと思っています。

もう一つ、やはり運動というのは、きちっとした正しい姿勢で歩くことが基本で、それをやらないと本当の健康にはならないと言われました。この世代になると、あえて色んなスポーツをやるとよりも、むしろ、きっちり歩く方法を教えるような、ウォーキングスクールとかの学習会の場は、あってもいいのかなと感じています。

○今野多美子委員　このテーマは、漠然として幅の広いテーマだったものですから、婦人会で聞いてみました。なかなか自分の時間を作るのが難しい、「体育館に行ってウォーキングしている人方が、うらやましい」と言うのが、私たちの世代としては本音のようでした。それで、そ

の場所に行かなくても、楽しみながら、グループをつくって自分たちでできることを、やればいいのかと考えることができました。例えば、ご近所同士でウォーキングをする仲間を作るとか、体を動かすだけではなくて、笑って健康にというサークルもありますので、そのような所に足を運ぶとか、束縛されないで、自由にできる健康法を、それぞれに仲間づくりをしていくのも大事ではないかと話が出ました。本当に個人の意識の問題だと思うのです。婦人会では、そのような事を話してきました。

○上林節子委員　先ほども出ましたけれども、まず自分の体を知ることではないかなと思っております。そして自分の体を知ることが、やはり年2回は特定検査を受けて、異常が出れば必ず医者に行って、自分の体にアフターケアをする。自分自身がそれに気付くことが一番大事なのではないかなと思っております。あと情報関係ですと、町報とかいろんなものに、運動のことが載っておりますし、地区の方にも、出前運動などが巡回してくる事業もあるようです。そういう情報に耳を傾けたり、あと JA 女性部としては、地産地消を進めるために、料理教室をしたり、女性部祭り、健康に関しての講演をいただいたりしておりますけれど、そのようにして、組織としての強みとしてやっています。まず、その組織に入っていくことも、大事だと思いました。

○小野木覚会長　はい、どうもありがとうございます。全員から聞きたいのですが、11時から次のテーマがありますので、今この4つのテーマのなかで、特に60歳に達している方々からお聞きしました。これをまとめて次の問題に移りたいと思いますが、今の健康づくりについて、一人ひとりが自分の健康を考えながら、ウォーキングをして、または楽しんでいる。少数のメンバー同士が、運動しながら楽しんでいる、という意見。あるいは、「地産地消」という食のあり方。これも楽々や、農協で勉強会を行っていることも知っております。ぜひ、行政も農協も一体となりながら、こうした機会を何回かやっていただきたいと思っております。また丸山委員は、体育協会の会長をされてグループ200名を率いて、一生懸命やっております。ぜひこれも継続し、そしてまた仲間を増やしてもらいたいと思います。自分が、自分の健康を守ることが基本ですから、自己責任というものは、十分に負えるように、ひとつ、それぞれのサークル・グループで、まとめ上げていただければなあとそういう思いであります。また、行政の方からも良い知恵がありましたらアドバイスをお願いしたい。そう思っております。次のテーマに移りたいと思いますが、よろしいですか？

○丸山鎮委員　ちょっといいですか？質問ですけども、進め方についてです。年間何回この協議会をやるのですか。まだテーマは3つ残っているわけですけども、今日3つのテーマ皆やるんですか？

○今野総務課長 前年度は5回の審議会を予定しておりました。今年度も同じくらいの審議会の回数を予定しております。

○丸山鎮委員 そうすると、今日この「市民の健康づくり」について、もう少しこれに絞って、話を詰めるとか、只話しばなしでなくて何か行政の施策として、生きるようなものをしないと具合が悪いのではないですか？

○今野総務課長 健康づくりは、スポーツだけでなく、いろんな面があると思います。意見を集約するなかで、資料等も足りない部分がありましたら、次回まで出させていただきますし、まだこのテーマについて、話足りない部分がありましたら、お願いしたいと思いますし、次のテーマに移っていただいても結構です。資料提出などしながら、何回か同じテーマについて話すこともあろうかと思えます。その辺の中で、これはこれと決めていただいて、進んでいった方がいいのか、その辺は委員の皆様におまかせしたいと思いますけれども？

○小野木覺会長 このテーマに今日、結論を出すとなると、なかなか難しいのではないかと。まず皆さんの話をまとめてもらって、こういう方向でというのを、この次の会議で出すしかないのではないのでしょうか。

○丸山鎮委員 今回は、平成23年度の第一回目の審議会ですので、これから5回やって、3つのテーマをやるわけです。進め方、そしてどんな風にまとめるのか、どうもそこら辺が見えないのです。去年もそうだったのです。課題なのだから、やっぱり早急に、解決しなければならないと思うのです。ただ出された課題が、長期計画を立ててやらなければならないものがあると思えますけど、緊急に、皆んなで取り組むものだって、あるのだと思うのです。進め方が、どうも見えない。今回も、そんな感じがするのです。だからその辺の所、行政の方から、話をしやすいように、方向性を示してもらえればありがたい。

○小野木覺会長 今、丸山委員さんからお話ありました。確かに、私も座長の立場で、皆さんに意見を出してもらって、それをどうまとめていくのか。そのまとめた結果をいつ報告するのか。ちょっとその辺が分からない。

○中村支所長 藤島の場合は4つのテーマで、他の地域と比べてテーマ数が多いということもございます。2年間の任期のなかで、一定のテーマにつきまして、皆さんのご意見をまとめながら、整理したいと考えております。冒頭で申し上げましたが、可能なものは、できるだけ来年度予算に反映したいということもございます。健康づくりについては、ご意見頂戴しました実態の調査とか、具体化しやすい施策ですので、テーマの順番を3番目から入っていただいた訳

です。一定の議論が出尽くしたという段階であれば、そろそろ次に移っていただいても宜しいと思います。目途として4つのテーマについて、11月の予算要求編成までに一定のご意見を頂戴して、大きなまとめをしていきたいと考えております。私どもといたしましても、それを元にしまして、具体的に予算要求に反映できるように施策として形づくっていくのかという検討も必要でございますので、それも含めまして、進めていただければと思っております。健康につきましても、まず自ら健康を守るというのが基本だと思うのです。それで、どういう形で健康づくりをするか、これは食・医療・健康診断など、非常に多岐にわたるかと思えます。行政としても、運動のためのきっかけをどう作るか、あるいはそれを継続していくための環境をどうするか。また冬場の場合ですと、家で軽くストレッチをやる方法とか、最近さまざまな方法があるようでございます。今日だされた意見も含めまして、色々、施策としてどうか整理を試みたいと思います。必ずしも今日3つ全部片付けると言うことではなくて、11月を目途にして、3のテーマについて、ご意見交換をしていただくということで、進めていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

○小野木覚会長 はい、ただいま支所長さんから、説明ありました通りまだ足りない点については、次の段階でまた取り上げるということで、説明いただきました。よろしいですか？

○富樫達喜委員 具体的になんか、こうしようというものを出さないと、なかなか収まりが付かない所もあるので、非常にこのテーマ難しいのですよね。体育館のランニングコースというのは、無料開放しているのですか？

○佐藤教育主幹 無料で使っていただいております。入口で、お名前を記入して、開館の時間中であればまず自由に使ってもらっております。冬場になりますと、使う方はだいぶ増えておりますし、逆に言えば、ご自分の都合で、いつでも10分歩きたい方は歩けばいいし、走る方は走っています。そういう使い方もできます。

○富樫達喜委員 無料開放してるのなら、1週間に1回でもいいので、正しい歩き方ができる指導者を置いて、指導してもらったらどうか、そして、もっと宣伝をしたらどうかと思います。とにかく冬季間は容易でないです。ウォーキングやりなさいと指摘がありましたが、年寄りが転んで、怪我しているですよ。調べてみたら相当数多いと思いますよ。

市の広報、どれぐらい見られているか、町内会で一度調査してみたら、7割ぐらいは見えない。そういう実態の中で、市の方でも、広報だけをたよりにしていたら、やっぱり市民には情報は届いていないということになるので、地域の中で、もっと大事なことは、もうちょっと連絡方法も考えないと駄目なのかなあとと思います。

○小林功委員　私は、中村支所長から言われたことで、いいのではないかと考えております。各委員が言われた意見をまとめるのは大変なことで、市の方で知恵をしばってまとめていただきたいと思います。この話の中で感じたのは、一つは、現状認識。この地域で健康づくりの実態がどうなっているのか、すぐ見えるような形でまとめたマップが必要なのかなと思います。それからもう一つは情報の提供、今の広報等は、催しものの連絡が主で、魅力がないですね。したがって健康づくりのための情報に少し金をかける。皆んなが親しんで、謁見できるような情報提供・紙面づくりをする。それから歩くことは、健康の基本だと私も思っていて、歩き方の講師を呼んで、研修をやった方がいいと思います。それから健康というのは、心が最初にありきだと思うのです。心が豊かであれば、健康に有効になっていきますよね。健康に関する取り組みの情報も、皆んなで共有する。行政からは情報の提供と、それから現状認識に関わる資料の提供をしていただきたいと思います。

○阿部正良委員　全体を分科会に分けて話したらどうでしょうか。オープンで議論するとなかなかまとまらないのかなと思うのです。

○小野木覚会長　はい。どうもありがとうございます。基本的には、広報を見ている住民は何割いるのかと言う話。いくら情報発信しても「それはやりたい人がやればいいのか？」と言う人もいるだろうし、これは強制はできないわけですから、今まで通り、発信するものは、発信していただく。それから予算についても、先ほど丸山委員さんから、5年間で体協の補助金は終了するのだという話ありましたが、こうした予算についても、もう一度、見直しをしていただくことをお願いしたい。その他に、健康づくりそのものは、人それぞれの自己責任だと思うのです。例えば体育館には、健康のための設備が整備され、無料で利用できるような設備になっているわけです。行政はこのような審議会で提案されたことを一生懸命やるけれども、じゃそれを事業している人はどうなのか。行政がお金をかけてサービスして、そして商売している人の邪魔をしているっていうこともあるのですよ。我々、審議会として考える必要があるというのは、要望ばかりが審議会ではない。と私は座長の立場から言いたいです。自己責任というものがあるはずなのです。そういうものも含めて責任のある審議をして欲しいなと考えております。

今日の話を取りまとめるに当たっては、なかなか難しい問題もありますが、食と健康、それに運動もあるわけで、どこまで行政がやれるか。それから広報についても、当然、書かないとまた書かないと言われますので、きちっと書く必要があると思います。それを読むか読まないか、広報にどこまでお金をかけるのか、こうしたことも自己責任だと思います。ぜひ皆さんも自己責任を持ってください。いつも要望ばかりの審議会は、どうかと思いますが如何でしょうか？次に移ってもよろしいですか？

○全員 はい。

○小野木覺会長 はい、それでは次に移りたいと思います。地域活力を高める方策についてということで、2番目に移りたいと思います。ご説明をお願いします。

○今野総務課長 「地域活力を高める方策」というテーマで、「少子高齢化や経済情勢などにより、地域の活力も減退が懸念されている。生活基盤の面では、住民自ら活力を高めていく努力が肝要であり、その方策を各分野において探る」といった部分で、これについて、皆さんから色んな意見等を出していただきたいといった趣旨のものでございます。

○小野木覺会長 はい、ただ今、課長の方から、地域の活力を高める方策ということで、皆さんから色んな提案をしていただきたいということであります。丸山厚さん。

○丸山厚委員 地域の活力とありますけれど、各地区の公民館活動が中心になるかと思えます。各地域の集まりやすい公民館活動で、地域住民がコミュニケーションをとれるような活動が必要だと思えます。現在も行われていると思いますが、もっと充実させるなど、各地域の公民館が大事だと思っています。

○成澤修委員 この問題ですけど、去年も話し合った地域後継者の育成の方針の問題と大きくわけては同じだとは思いますが。若干、話しが外れますけれども。4番の地域コミュニティのあり方とありますが、藤島町のことは、私どもは分かりますけれども、他の地域のことは、2回目か3回目の審議会の時に説明を受けた訳ですが、その辺が、何がどう違うのかの資料を、できれば配布していただければありがたいです。もう一つ要望ですけれども、この間、教育委員会から出された、学区編成に伴う資料も、お見せいただければ、ありがたいと思います。たとえばいくらここで長沼地区の活性化をしようと言っても、かたや別の審議会で、長沼地区には、もう小学校はいりませんよとなれば、議論はもう進まないわけですので、その辺の資料は、提出していただければありがたいです。

○小野木覺会長 はい、ここでちょっと意見を打ち切りまして、行政の方に、バトンタッチします。丸山委員の意見と、一緒の部分もありますが、成澤委員のご意見について、行政の方は、どう考えておりますか？それから、資料がありますか？

○今野総務課長 はい、ただいまお話しされました、地域コミュニティの違いにつきましての資料、それに去年、説明あったわけですが学区編成についての資料は、次回までには、皆さんのお手元に事前に差し上げて、それで議論していただければと思います。

○高橋竜太委員 藤島中学校 PTA の高橋と申します。地域力の減退、住民自ら活力を高めていく努力というところで、うちの上藤島の話を見せていただきたいと思います。上藤島の公園は、10年くらい前に作られまして、その経緯として、行政主体でなく、地域の若者を中心とした集まりで公園が欲しいということで、行政の方々からも協力を頂きながら、10年前に公園が完成しました。公園の維持管理の面でも、老若男女含め、町で維持管理に取組みをして、コミュニティがとても活発になっているなど私は感じております。その中で、維持管理する面ではお金の問題もありますが、地域の限られたお金を使いつつ、子供たちは公園で遊び、お年寄りたちは、グランドゴルフの練習も出来るような敷地とかも、作った訳なんです。こうした地域の自治体主体の活動が、うちの地域では誇れるなぁと感じております。私の意見は、以上です。

○相馬大委員 今、私、この地域について、非常に危惧しているのです。今の時代は、震災からの復興ですよ。国民全員がこれだけ、地域のために、国のために、何が出来るかを考えた時代は、戦後初めてだと思います。その中で、これから間違いなく太平洋側には、強い光があります。その光の直ぐそばというのは、一番、暗いんですね。確かにこの地域も、いろいろできることを一生懸命やっているのですが、でも地域から離れて、東京から見たときに、山形県、とくに鶴岡がやっていることは全然見えないのです。このままでは間違いなくこの地域は必要とされません。積極的に表に出てこないという、この地域の特性というものに非常に危惧しています。あとネットワークや人と人のつながりが弱いので、表になって見えてこないというのもあると思うのです。地域力というのは住民力だと思いますので、いかに強いネットワークが作れるかが重要だと思います。広報誌の話がありましたが、広報は、住民が自ら発信していかないと、あたりの人達が何やっているのか分からないんですよ。今、高橋委員がおっしゃった事もお互いに知らない。地域の人たちが自ら情報を発信することで、地域の一体感、連帯感を作ることが出来れば、地域の結束がすすむ。これが地域力だと僕は思うんですよ。

○小野木覺会長 はい、どうもありがとうございます。これは町内会報みたいなもので持っていった方がいいのでしょうか？市からもらう広報は、私も見る機会が少ないです。広報は、果たして、これ皆んな見ているのかなあとも思う。その情報を、どうやったらいいのでしょうかね？

○相馬大委員 私も具体的に、どういう媒体がいいか答えを持ち合わせていませんが、ただ、一方的に流されてくる情報っていうのは、あまり面白くないっていうのがあると思うんですよ。行政のお知らせが載ってもいいですが、主な部分は、住民側からの発信でないと、あまり読みたいと思わない。

○小林功委員 公民館で住民側の発言や想いを一度まとめて、そして公民館を經由して発信し

ていただくことだと思います。住民だけでは、編集能力の問題とか、レイアウトとか難しいので、公民館が整理して、そしてまとめて、つなぐ。これが藤島らしい公民館の原点、生かし方だと思う。住民が公民館を核として繋ぐ、常に悩みとかいろんなものを正直に素直に話合える場に作り変えていく。これも必要だなと思いますよ。

○小野木覚会長 はい、どうもありがとうございます。これは女性の方々からも意見を聞きたいと思います。女性の皆さんからもいろんな提案がありましたが、情報がないと外に出れない、けれどもその情報発信する人は誰なのか。行政からでは面白くない、なかなか堅い話なので、見る機会が少ない。ところが仲間から連絡もらおうと、その気になって出かけていく。どう思いますか？

○今野多美子委員 とても難しいですね。思うには、広報を見ますと、自分の聞いた名前の人の意見とか、地域の人声は、確かに、目が留まります。情報の面では、個々の活動が活発になっているものですから、団体に所属する人の数が少なくなっています。でも婦人会に入っていればこそ、届いてくる情報っていうのもあります。震災の後に、本当に色々な情報が届いてくるものですから、こうした情報を自分たちだけで留めておくは、もったいないなあと思い、地域の人にも発信したいと公民館に掲示板を一つ作らせて頂きたいと思っているんです。そして掲示板には、あなたの考えも教えてくださいとも乗せたいと思っているんです。

○小野木覚会長 掲示板みたいなものが、大きく公民館の前にあったら、いいのかもしれないね。これも含めて、4番の地域コミュニティ・住民自治組織のあり方も絡んでくるようなので、4番に移って、2番の話も一緒にしていいですから、4番に移りたいと思いますが、よろしいでしょうか？

○相馬大委員 今回の掲示板に付随して、今回の震災でも、ものすごく役立ったフェイスブック、ツイッター。これは、たぶんピンと来ない方もいっぱいいらっしゃると思うのですが、ただ住民というのは、年齢幅ありますから、我々の世代だと、もっと広範に活動するわけですから、その中でも、フェイスブック・ツイッターは、市でも作れますから、使えるものは何でも使って、その掲示板と同じようにして、ぜひ、作っていただきたい。金ゼロです。

○小野木覚会長 これも、メモしてくださいね。それでは段々熱が入ってきた所ですが、すぐ結論はでないので、地域コミュニティの問題については、次回に移させてもらうことにします。それでは、これで藤島管内の地域審議会の協議テーマについては、打ち切りをさせていただくということで、よろしく願います。どうも、ありがとうございました。

○今野総務課長　　どうも、ありがとうございます。大変、意見も盛り上がってきた所で、中断となりますけれども、次回、資料を準備いたしまして、お聞きしますので、それに基づいてまた協議も進めていただきたいと思います。

## 6、その他

### (1) 鶴岡市行財政改革について　（事務局より説明あり）

#### 質疑応答

○小野木覺会長　　暫時の間、座長を務めさせていただきます。ただ今、市の方から、行財政改革について、ご説明いただきました。何か、皆さんの意見はありますか？

○高橋徳雄委員　　今、色々、ご説明いただきましたが、すぐ皆さんが理解されるのは、無理なのではないかと解釈します。これを見て分からない場合、どこに電話すればいいのか教えていただきたいと思います。特別職の改革について、特別職審議会という会があるわけですがきちんとやっているのか、その辺も伺っておきたい。それから合併の建設計画のときに、藤島バイパスの建設を要求してきました。これは県の仕事だとは思いますが、その辺の予定は、何時頃なのかお聞きしたいと思います。もう一点であります、今回の大震災をうけ、庄内浜での想定震度も8.8に上げられた修正案がだされ、これについてどういう対応をしていくのか。大きな課題だと思います。もう一点であります、藤島の場合は、これまで学校や特老施設、福祉施設もなんとか合併前に作ってきました。あれから何十年もなりましたんで、今後は修繕の方が掛かりますので、その辺も考慮していただきたいと思いますと申し上げます。

○富樫達喜委員　　関連になると思いますが、例えば鶴岡市の特色として、東北でも一番広い市で、広くなれば地域庁舎の数も増えてくると思うのです。その場合、ただ単に職員を減らせればいいということでは無く、その点も充分、考慮した上で、削減というのは図っていくべきだろうと思っています。その辺についてもコメントあればお願いいたします。

○小野木覺会長　　加藤総務部長、お願いします。

○加藤総務部長　　お答えさせていただきます。最初に、議会の関係でございます。今回の行財政改革大綱については、市長部局を中心にさせていただいております。特別職の報酬等について、現在、議会内部で、活性化、定数や改革に向けて各党派代表による見直しの動きがございます。その結果を待って、我々、議論させていただけないかと考えております。これが、第一点目でございます。

それから、一般職の職員の削減ですが、行財政改革の真の狙いは、今後とも、合併を契機に、

将来も希望を持って住み続けられる町づくりをどうしていくのか、その部分でのマンパワーは、お金の部分と両輪であると思っております。今後、少子高齢化にむけての対応、あるいは広大な市域の中で、どのように活性化に向けて対応していくか、そうした部分について、充分配慮したものでございます。

実施計画にもありました通り、平成22年度の類似団体との比較では、他の都市よりも、213名も多い状況になっております。これだけ多い職員を抱えて、行政運営・財政運営というのは、大変難しいということで、約180名ほど減らさせていただきますけれども、ただ今、委員からご指摘があったことは、十分考慮したいと思っております。例えば総務については、地域庁舎でのコミュニティの維持については、今後とも職員を配置して削減幅は小さくしてあたっていきたい。それから農林水産・商工についても、今までの地域資源を活用した農産物の生産、販売、あるいは観光の振興のため、その削減幅についても考慮させていただく。また、市民の財産・生命を守っていただく消防も、今後、消防団、非常備消防団、団員のなり手がいないということも考慮し、分署体制をどうやって維持していくのか、そうした所での職員配置も考慮する。このように一律に職員を配置するだけではなくて、メリハリはつけさせていただく。ただ建設部門については、例えば3庁舎に集約させてもらいたいという話も、ちょっと極端な話をすれば、藤島の道路や除雪についても、藤島で途切れることなく、羽黒や鶴岡とか、その圏域の中で効率的に交通体制や除雪体制を確保するためには、地域というよりは、圏域の中で考えていく、そうした工夫もさせていただきながら、今回、提案させていただきました。併せて、今後、市民・地域・行政の総合力が発揮できるシステムの構築ということで、地域の活性化に向けて、庁舎機能はどうあるべきか。例えば藤島であれば、藤島の施設をどう有効に活用していくのか、ぜひ地域審議会の方々からもご議論いただければと考えております。それから建物の維持修繕の関係がございました。これまでの鶴岡市の投資事業については、合併特例債という大変有利な借金で、消防庁舎や総合保健福祉センターなどいろいろな事業をさせていただいております。これがなくなりますと、ほとんど国が借金を肩代わりしてくれるいい制度がございません。今、財政課では、投資計画を作り、やるべきものは平成27年度まで、できるかぎりさせていただく、ただその分、借金が増えることは確かでございます。その後、どうなるかということになりますと、委員からご指摘あったとおり、今までの施設や道路、橋などを、長寿命化し、末永く使うために適切な修繕、管理をし、それを維持するということが、今後の大きな市の行政のポイントになろうかと思っております。このための財源を捻出するために、申し訳ございませんが、例えば、一部、特定の方々が使用されている施設については、その使用されている方々が自主的に管理、自分のものだと思っていただいて、愛着を持って管理してもらおう。実際に交付税が減るのは28年度からですが、今、行財政改革を先んじてやることによって、浮かせていただいた経費を使って、財政調整基金の積み立てを行ったり、あるいは、政策的な経費に回すことができる。例えば今回の大震災に基づくハザードマップの作成とか、市民の方々が安全・安心に暮らしていただくための基盤づくり、あるいは少子高齢化の中で、

地域の振興・活性化を図っていく。逆に平成27年度までに、地域の産業を活性化し、企業の方々や市民の方々から、収入を増やしていただき、税金を多く納めていただくようなものに使いたいというような考え方でおります。行財政改革は、いろいろ個別のケースでは、抵抗はあるかとは思いますが、ぜひ皆様の納得を得た上で、進めさせていただきたいと思っております。これらについてのご理解・ご協力を賜ればと考えておりますので、よろしく願いいたします。今後、ご意見等あれば、調整課で承りますのでよろしく願いいたします。

**○小野木覚会長** はい、どうもありがとうございます。行財政改革については、一生懸命やっていることも、よく分かりますが、藤島地域の審議会で、もう一度、意見交換あるいは皆さんの地域の考え方をお聞きするチャンスをいただければと思っています。ぜひこの問題については、お話したい方がもっといると思うのです。行政の皆さんが、まともな話をしております。でも角度を変えれば、いろんな形に見えるわけです。それぞれの見方、聞き方で、言い分があるかと思っておりますので、その言い分を出さないと、どうも行政の考え方と、地域の考え方が食い違うことになるかと思っております。ぜひこの行財政改革を含めまして、地域の今後のあり方というものを真剣に考えている皆さんに、ぜひ時間を取っていただいて、意見交換のための機会を作っていただきたい。よろしく願いいたします。本当に今日は、大変、長時間に渡り、それぞれのご意見をお聞かせいただきありがとうございました。

## 7、閉会

**○今野総務課長** 会長さん、委員の皆さん、本当に長時間、ご苦勞様でございます。それでは、本日の地域審議会、これで終了とさせていただきます。皆さん、ご苦勞様でございます。